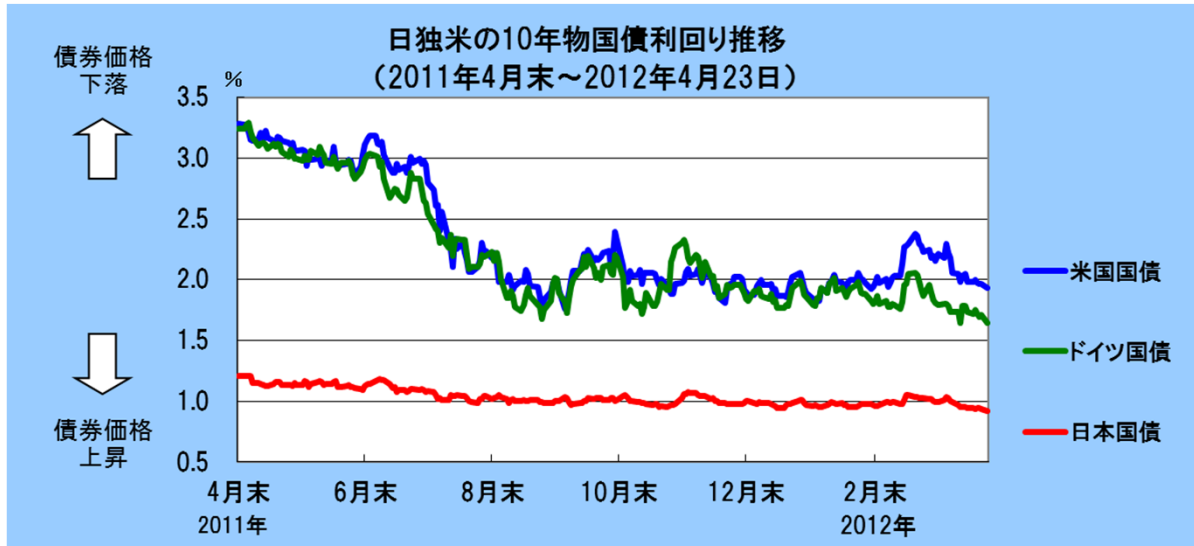


内外債券市場

作成日：2012年4月24日
作成者：杉本年史

■4月の債券市場：国内外とも先進国債券利回りは低下(価格は上昇)。



データ：Bloomberg

【国内債券】

■4月の市況：日銀の金融緩和姿勢や米中の景気鈍化から堅調に推移。

指標銘柄である10年物国債利回りは、3月末に付けた0.99%から0.07ポイント低下し、4月23日現在0.92%となっています。

日本銀行の白川総裁が、消費者物価上昇率の前年比+1%を目指して金融緩和を推進していく姿勢を強調したことを受け、次回の日銀金融政策決定会合で追加緩和策が打ち出されるとの見方が債券市場で強まったことから、長期金利は低下傾向となりました。また、米国の経済指標が予想より弱かったことや、中国の国内総生産(GDP)が予想を下回る伸びにとどまったことで、世界の経済成長が鈍化しているとの見方が強まったことも、債券価格を押し上げる材料となりました。

■今後の見通し：注目テーマは、日銀の金融緩和政策。

今後の国内債券市場のテーマは、日銀の金融緩和政策です。27日の金融政策決定会合で、当面の物価予想をまとめた経済・物価情報の展望が公開されます。「物価安定の目途として当面1%の物価上昇率を目指す」としたため、物価の上昇が見通せない場合はその会合で追加緩和に踏切る可能性があります。従って、当面国内債券市場は堅調な相場展開が継続すると見えています。

【海外債券】

■4月の市況：予想を下回る米雇用統計、欧州債務問題の再燃で利回り低下。

＜米国債券＞

米国の経済指標が予想より弱かったことやスペインの財政状況の悪化懸念を背景に、米国債券市場は堅調な展開となりました。指標銘柄の10年物利回りは3月末の2.20%から0.27ポイント低下し、4月23日現在1.93%の推移となっています。

米労働省が6日に発表した3月の雇用統計で、非農業部門の雇用者数が12万人増と事前予想(約20万人増)を下回ったことから、景気回復を持続させるため追加金融緩和を実施する必要があるとの観測が広がりました。また、スペインの銀行の欧州中央銀行(ECB)からの借入れが前月から約50%増えたこと、同国銀行の不良債権比率が2月時点で8%と約17年ぶりの高水準となったことなどから欧州債務問題への懸念が再燃、これも米国国債の押上げ材料となりました。

＜欧州債券＞

欧州では、ドイツ国債10年物利回りは、3月末と比較して0.15ポイント低下し、4月24日現在1.64%の水準となっています。スペインに対する不安の高まりに加え、財政緊縮策をめぐってオランダの少数連立政権が崩壊寸前となったほか、フランス大統領選の第1回投票でサルコジ大統領が最大野党「社会党」のオランド候補に得票率で下回ったことなどから、欧州債務問題に対する懸念が再燃し、スペインやイタリアなど財政を不安視される国の国債利回りが上昇(価格は下落)する反面、安全資産としてドイツ国債が買われました。

■今後の見通し：米国、欧州の金融緩和策で、低水準で安定推移を予想。

米連邦公開市場委員会(FOMC)は、低金利政策を少なくとも2014年終盤まで据置くことを示唆しており、これが引き続き米国債券相場を支えるとみています。また、ユーロ圏には解決されていない根本的な構造問題が依然存在しています。例えば、スペインの財政状況をめぐる不透明性は大きく、ポルトガルが債務再編に追い込まれるとの懸念も強まっています。このような不透明な環境のなか、欧州中央銀行による金融緩和政策への期待が世界的に債券市場のサポート要因になると見えています。加えて、イランなど中東情勢についても不安定さが残ることなどからも、安全資産としての債券利回りは概ね低水準(価格は高値圏)で安定推移となりそうです。

当面の米国国債10年物の予想利回りレンジは1.7~2.1%、ドイツ国債10年物利回りは1.5~1.9%での推移を予想しています。

【 注 意 事 項 】

- 当資料は、情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
- 当資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料は、キャピタルアセットマネジメント株式会社が、信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料におけるデータ・分析等は過去の実績に基づくものであり、将来の運用成果および市場環境の変動を保証もしくは示唆するものではありません。